

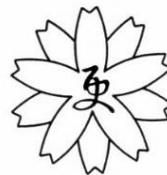
掛川地区

更女会だより

第99号 更女会だより

掛川支部担当

令和2年9月発行



『令和2年度の始まり』

会長 小澤 悦子

輝かしい令和2年度の幕開けと思いきや、とんでもない！世界中に、新型コロナウイルス感染が拡大してしまいました。日本では、4月に緊急事態宣言が出され、日常生活も社会経済も一変してしまいました。テレビや新聞では、パンデミック（感染症世界的大流行）、クラスター（集団感染）、ソーシャルディスタンス（3密を避ける社会的距離）など聞き慣れない横文字が飛びかっています。

自粛の中、更女総会も異例な形となりました。会員130名の委任状をいただき、役員12名だけの総会を5月27日に開催し、終了した事をご報告いたします。

感染症対策に、マスク着用があり、県更女連盟から4月10日に手作りマスク寄付の依頼がありました。役員に連絡し、4月17日に107枚を県へ送付する事ができました。県全体では、1807枚集まり関東地方更生保護委員会・県内更生保護施設に送付したそうです。ご協力ありがとうございました。以後寄付していただいたマスクは、各市町村で活用くださいとのことです。

今年度予定していた事業は、ほとんど中止や延期となってしまいました。ボランティアは大切ですが、自分自身や家族の健康が第一です。コロナウイルスに感染しない様、不幸にも感染してしまったら他人に移さない様気をつけて過ごしましょう。三行日記が、いつしか行動記録に変わりました。口紅は、ほとんど使わなくなりました。旅行も

しばらくおあずけです。コロナ終息は期待できないので、新しい更女活動を模索する1年になりそうです。



更女会で集めたマスク107枚（写真の一部）

目次

- P1 令和2年度の始まり
(会長 小澤 悦子)
- P2 少年の家の夕食作り
(大須賀支部 松浦 八重子)
- P3 少年鑑別所のお茶会をして
(大須賀支部 中山 キクエ)
- P4 令和2年7月豪雨
お見舞い申し上げます
(大須賀支部 鈴木 睦子)
- P5 ~P11 コロナ禍に生きる！

【掛川支部】

戸塚久美子・小林くに・伊藤啓子
落合満江・仲川幸代・松浦伸代
野中・池上・和田・杉森・Mさん
Yさん・佐藤英代

【大東支部】

佐藤穎子・鷲山千恵子・明石ふさ子
野中晴美・太田まつ糸

【大須賀支部】

山口友美恵・清水久美子・伊藤富子
大鐘きぬ代・峯美枝子・深谷由美子
神谷郁子・神谷さと子・寺田正子
T. Nさん・R. Sさん

掛川市役所福祉課

掛川市長谷1-1-1

TEL:21-1140 FAX:21-1163

掛川地区更生保護女性会

<http://kakegawa-koujyo.com/>

会長 小澤 悦子 TEL:23-0836

初めての参加で不安でいっぱい。少年の家玄関で所長さんのお迎えの言葉が気さくでホットしました。厨房の使い方説明を受けた後、下準備とスーパーにて買い物。

家で煮た黒豆と五目寿司の具、錦糸卵を持ち込んで、本日のメニューは「①ちらし寿司②ぶり大根③ほうれん草のごま和え④野菜スープ⑤デザート⑥漬物⑦黒豆」としました。

入所者の方が炊き上がったご飯に具を混ぜたりきれいにバランスよく盛りつけてくれました。持参したキャベツが残ったので、キャベツの即席漬けも作りました。

同行した方が、折り紙のひな飾りを貼ったタペストリーや内裏様や禁裏様を作って持参してくれたので、壁に飾ったり、一人ずつのお膳にももの



せました。又、家のネーブルと、その横に苺をのせ、チョコレートを添えて、バレンタインを演出。ひな祭りらしく華やかな盛りつけができ、入所者の方も私達も、一足早い春を感じる事ができました。

私を含め、初めて参加した三人は、ベテラン二人を頼って、行きはとても不安でした。

翌日、その中の一人が、ご主人から、帰ってきた時の明るい表情、ほっとした笑顔を見て、「行ってきてよかったな。」そう声をかけてもらえたとか。

その言葉を聞いて、「何より行かせてもらってよかった。」と感じました。会員さんとも親しくなれて本当に嬉しい1日でした。

私でも「できる時に、できる支援を！！」させていただければと思いました。



今の様に新型コロナウイルスについて騒がれていない2月20日、少年鑑別所のお茶会（お茶の指導）の要請を受けて、行ってまいりました。

私としては、鑑別所のお茶会は、過去2回行っており、何となくその場の空気は分かっている様な気がしておりました。

今回は小沢会長さん、私の社中の2名、計4名でお茶会に参加致しました。

今回子供達は6名と云う事で6名一緒に行うと思っ居た所、鑑別所の都合で3回に分けて下さいとのこと。女の子1名、男の子2名、男の子3名と云う分け方になり、1時間で3回、1回が20分と云う事これも出入りの時間も含むとのこと。

時間の配分が大変でした。それぞれの回で、子供達に伝える事が違ってはいけない、これからの生活の中で、少しでも私の話す言葉が生かされたら良いと思ってお茶の心について話しました。

和敬清寂

和とは 皆が仲良くすること

敬とは 自分を取りまくすべてに敬う心を持つ

清とは 自分自身の心を清め素直な心が一番

寂とは 後になって悔んだり失敗をしない心の準備

一期一会

今日と云う日は二度とない事、今と云うのはこの時だけ一分先は未来通り過ぎた一分前は過去。だから今を一生懸命生きてほしい



こんな事を話しお茶一服「お茶、お菓子」をいただいて茶会は終わりました。

その中で、お茶碗の扱いのきれいな子供が居たので、「お茶習った事があるの？」と訪ねた。「学校の時に少しやっていた」との返事だった。

「お茶には若い人の会があるから、その会に入って一生懸命にお茶したら？」と云うと、顔が明るくなり「うん」とうなずいてくれた。

この子供がこれからお茶の道に進む事ができたら、二度と鑑別所に来る事はないだろう。と思いつつ鑑別所を後にしました。



『令和2年7月豪雨お見舞い申し上げます』

大須賀支部 鈴木 睦子

「協働遠州の皆さんがタオルを集め被災地へ送ってくれる」と聞き、「せめて応援させてもらいたい！！」という思い付きで大須賀支部の会員に連絡網から、ご協力をお願いしました。

なんと3日間で236本が届きました。報道される被害状況から会員の誰もが「今私にできることは！」と想っていたからでしょう。さすが更女の～ワンチーム～を力強く感じました。

運ばれたタオルは1本1本に送り主の思いが伝わるよう写真のとおりにテープがかけられ、箱詰めとなります。

その作業をして下さるのは、市内の小・中学生ボランティアさんと、父兄さん。夏休み前の貴重な日曜日、蒸し蒸しと暑い会場で、マスクをかけ、汚れを確認し、畳んでテープを巻いてゆく姿がNHKニュースで放映されました。

きっと、一面が泥水に埋まってしまった人達の不安と悲しみ、心の痛みを感じながら、作業されていることだろうと胸が熱くなる思いでした。



令和2年7月18日 (土) 中日新聞



← テープがかけられたタオル

今年は『社会を明るくする運動』も第70回を迎え、～広がり、繋つながら未来の輪～も、ますます大きくなっていくことでしょう。

私はこのボランティア活動をされている皆さんこそ、《明るい社会づくり》の目指すところだと感じました。

他人の痛みを知り、悲しみが共有できたら、犯罪や非行は生まれないのではないのでしょうか？

今まで更女の活動として見ていた部分、ボランティア活動としてのみ見ていた部分が、社会でつながり《地域のチカラ》であることを今回改めて教えられた気がしました。

～コロナ禍に生きる！～

『アフターコロナの社会は』

掛川支部 戸塚 久美子

「久美子さん、お宅のご主人や娘さんは帰省していないよね」と倉真の友人は言いました。このように、悪気のない心配の言葉を聞くように、首都圏方面からの移動者には、受難の数か月となりました。

新型コロナウイルス感染は、世界に大きな衝撃を与えていますが、上記のように私達の家庭でも地域社会でも、これまでと異なったところくばりと様々な対応が必要でした。私も発熱はないものの喉が痛い鼻が出る等、もしや新型コロナか？自分を自分で疑っても病院には行きにくく困って自粛の時間を過ごすことも。

また行事という行事も中止、折角準備した講演会も規模を縮小して行ったことも。とてもやるせない3か月でした。この受難は殆どの皆様が経験されていますが、経済活動の担い手の方々には自粛は死活問題であり、戦時下のような厳しさの中にあって、そのお見舞いの気持ちを言葉では表せな

い程です。

さらには、差別も発生して、感染者周辺には誹謗中傷がエスカレートした例もあるとか。パンデミック化※の中で、人々は自身を律して正しい行動がとれるか。災害時であっても人として他者を認め合うこと、共有できることは、差別のない社会で大切なことです。

今後価値観の変化が起ころうとする中で、更生保護の分野でも、様々な考察が必要でしょう。100年前のスペイン風邪から先の大戦まで約20年の厳しい時代をくぐられた女性達の生き様を考察しつつ、私達が次世代へ何を伝えるべきか、皆様と語り合いたい心境です。

※パンデミック…世界的大流行

『「コロナ禍」の中で』

掛川支部 小林 くに

今年の初め友達と「三春の桜」を4月に見に行こうと計画を立て楽しみにしていたが、まさかここまで世界的大流行になるとは思いもしていなかった。

この三ヶ月、四六時中「コロナ禍」の中で過ごしていて「人の心の弱さ」を目のあたりにした。近隣でコロナ患者が発生するといち早く情報がSNSで、口コミでと広がり、あげくの果てに誹謗中傷され、徹底的にたたかれてしまう。その家族は地域にいられなくなり引っ越してしまったとか様々な噂が飛び交い友達や知人に会えば必ずその話題になる。

何かの本に「人は窮地に落ち込むと相手を徹底的に攻撃し、排除して解決しようとする心理が働く」と。人の一生を左右してしまう言動に恐ろしさを感じる。長い間生きてきて初めての経験でこれからの若い人たちの「新しい生活」がどうなっていくのか不安がつる。



『コロナウイルスで学んだこと』

掛川支部 伊藤 啓子

1月中国武漢で発症したと言われたコロナウイルス。

私はこの時、例年この季節に流行するインフルエンザ位にしか思っていなかった。

それが、数ヶ月でコロナ禍。世の中が一変した。世界中がパンデミックに。店頭では、商品を買求める人で行列ができ、品切れ状態。毎日発表される死者の数に恐怖を覚えた。

3密（密閉、密集、密接）、飛沫、不要不急。毎日新語であるかの様な聞き慣れない言葉が流れる。何が正解なのかわからない大量の情報に降り回される不安な日々。

手が荒れる程の手洗い、消毒、うがい。

とにかく自分が発症源にならない為に「注意をして下さい」と言われた事だけは守る。

その内に、発症されたご家族、係わる方々への心ない誹謗中傷がひどく生活ができない状況と聞かされた時には、“何故、今”腹立たしさを覚えた。何の力にもなれない自分の無力さ、人の心をも変えてしまうコロナの怖さも知った。

学んだ事もある。

①人とのつながり ②食と職の大切さ ③平凡な暮らしができる幸せ（大切にしよう）

我が家のコロナ

娘夫婦、婿さんが単身赴任中帰省できずコロナ発症時、体温計がないと大騒ぎ。

入社前に検温、家族中でさがしたが本当でない。（医療機関も不足していた様です）。そして友人から「防災袋の中に2本あるから使って。」暖かい言葉。まさに「人とのつながり」です。

又、ある時から食事を取るのが大変になり、娘が1週間分作り毎週、発送。受け取る側はタッパーが貯まるが…

お店にタッパーが品切れ。また大騒ぎ。

どんな事にも、かつて経験した事のない様な生活環境に戸惑う事ばかり。

なかなか先が見えず、ニュースもネットもコロナの話ばかり。ストレスが溜まります。

でも、家の周りの田んぼでは、例年どおり田植えも終わり早苗が風に揺れている。秋にはコロナも収まり、収穫も終え明るい話題の中で迎えたいな。

できれば、秋祭り（？）ができる穏やかな日を願っています。

後日、秋祭りは中止と聞いた。残念です。



掛川支部 落合 満江

片付け、整理など普段できない事が出来、良い時間がとれました。

掛川支部 仲川 幸代

突然のコロナ菌の発生により、世界が恐ろしい物にとりつかれた様な騒ぎとなりました。

日本では安倍首相始め、関係者達の日々の奮闘に始まり、医師・看護師・介護職皆々様御一同の御好意に感謝あるのみです。頭が下がります。

コロナにおかされた方々の御心には、「なぜ自分だけ？」と無念さが残られた事でしょう。お気の毒に思います。

1日も早く、良い薬ができ、皆様が安心して生活にもどれる様に、新薬関係者方々の御尽力をお願いいたします。

一般市民が、明るい日々の生活にもどられる日が、1日も早かれと祈ります。

掛川支部 松浦 伸代

夫婦二人の生活には何ら支障はなかった。
休校になった孫達の生活の支援、東京に生活をする娘が福祉関係の仕事をしているので、品不足になった生活用品と棚を送った。自粛中は、マスクを懸命に作り皆さんに喜んでもらった。最近はマスクもあるので在庫になっている。
田舎で食べ物もあり物がなければ、自分で作るという事ができるので、自分のできる事をして過ごしている。



掛川支部 池上

読書と洋裁でステイホーム。エプロンやマスクを作り、更女会でマスクの寄付を募っているので張り合いになった。

掛川支部 Mさん

何年も使っていなかったミシンを引っ張り出して、手作りマスクを作りました。やる気が出て30枚位作りました。下手クソでも、使ってくれる人があれば、うれしく思います。布を買い求め、マスク作りにはまっている日々です。
かつてやった事が無い箇所の掃除ができました。1日一部屋を目標にし、片づけをしました。その後は、外まわり。脚立を使いきれいにしました。年末の大掃除は、楽ができると思います。

掛川支部 Yさん

私は、80歳になる独り暮らしです。今朝、庭の草むしりをしていたら、隣のアパートに住む若い男性が、3階のベランダから「おはようございます。」と声をかけてくれました。普段話しをした事もない人です。最近、人と話す事もないのであいさつだけでも、とてもうれしく、気分が上々になりました。

掛川支部 野中

家の中で我慢していたらストレスがたまり、体調不良の症状が出てきて、自粛前に一緒に歩いていた仲間と連絡し「免疫力を高めるためには、歩いた方が良い」ということになり、距離を保ちながら歩くようにした。歩くと頭の中がスッキリするので体調も良くなった。

掛川支部 和田

5月連休までは家の中外の整理整頓してました。でも、5月の予定無しのカレンダーは真白！よく行く図書館の中は、真暗で35年間こんなことなかった！！それが自粛延長となった日の新聞欄に正岡子規の「あるがままをあるがままに」の一言を読んで、自分の中の何かがプツンと切れたみたいで自然に涙がほほを伝わって、半日、思い返しては流れていました。
新生活様式に準じて、6月から報徳社の庭で、「あおぞらよみきかせ会」と称して再開するよう動いています。



掛川支部 杉森

「自分からコロナを出してはだめだ」と、それだけ気にしていた。なるべく家から出ないように気をつけていました。

大東支部 佐藤 穎子

家族が医療関係と食品関係の仕事ですので休む事はありませんでした。

不要不急の外出は控えマスクの着用、手洗い、うがいはしっかりやっていました。

孫娘が県外の大学に通ってしまして休校になり帰宅することも出来ず、毎日料理を作りLINEで画像を送ってくれて両親共々、私とコメントを送りコミュニケーションがとれていました。

大東支部 鷲山 千恵子

休校になり孫の世話はなかなか…でした。学校が始まり落ち着いているのでほっとしています。

これからますます暑くなり熱中症もでてきます。夏休みは10日余り。どんな学校生活になるのか心配です。秋になって又感染拡大にならなければいいのですが。

お互いに気をつけて生活したいものです。

大東支部 明石 ふさ子

自粛生活の中で今までは忙しくしていたのに、今は外出する事はなく時間的な余裕と心にも余裕が持てました。外出しない分、家庭菜園にも手が届きました。例年は自己流なのでたいした作物もなかったのですが、今年は本を買ってきてある程度本を読んで真剣に取り組みました。胡瓜、茄子、トマト等今のところは順調に成育しています。

花壇も草取りしたり花の植え替えとかきれいになっています。他にもいつもは手の届かない室内も片付けができました。時間的なゆとりがあり手をかけることが出来ました

大東支部 野中 晴美

毎日孫たち相手に忙しく過ごしています。勉強も午前中だけで終わってしまいます。家の中ばかりで過ごす事ができないので外に散歩に出かけました。公園には人が集まるので、行くのは控えました。買い物にも店内には連れて行けないので車中で待たせました。長く買い物することが出来ないのが大変です。不便な日常です。

『私の日常生活』

大東支部 太田 まつゑ

世界中がコロナウイルスの為に混乱しています。

この様な事が起こるなんて夢にも思いませんでした。

イベント・サークル活動の中止、旅行もダメ、外食、買い物もひかえめに、会話する人も主人と猫だけ。そんな日常生活の中でも、私は趣味である絵を描いたり、外国語の勉強をしたり、ウォーキングしたり庭の草花の手入れをしたり、けっこう楽しく過ごしています。

又、コロナの流行した事によって、外出する時はマスクの着用、帰って来た時は、手洗いうがいをする習慣が身につきました。

そして、束縛されない自由がどんなにすばらしい事かという事を改めて感じました。

掛川支部 佐藤 英代

私は、長い人生のなかで、ウイルスの感染で、すべての世の中の動きがストップする事があるとは思いませんでした。ありがたい事に静岡県は被害が少なく、自分の周りを見ると、学校休み、飲食関係、会合、旅行中止など目に見えない部分で自粛で影響はいろいろあるみたいです。

地震、津波、水害など、何か手を差し伸べれば、復興できる部分もあるような気がします。ウイルスの感染は、マスク着用、2メートル以内近づかない、集団的なことは控える。今までとは別です。東京では、毎日50人前後の人が感染しています。社会活動も平常に戻りつつあるなかで、自分自身の行動に気をつけないと、いつまで続くのか恐いです。



『コロナ禍の日々を迎えて』

大須賀支部 山口 友美恵

1月の頃でしたか、「武漢」「ウイルス」というワードが耳に触れるようになりましたが、日常の中ではさほど心に留めることもなく過ごしていました。それがあっという間に日本中に世界中に広まり私たちの生活に影響するようになるとは思ってもありませんでした。これほど日々のニュースが私たちの生活に関わることは初めての経験でした。

学生の頃教科書で目にした感染に関する項目は1行ほどでしたが、太古から繰り返す人間の生活を脅かし、歴史に深く関わってきたこともわかりました。

テレビ、新聞等の報道を連日耳にすることによって私たちが一人一人気をつけることも理解できてきました。誰かに頼ることではなく、自分の行動を抑制し、マスクの着用、うがいの慣例、人との接し方等個人ができることを実践してきました。

マスクの品薄とともに自宅でも手作りマスクに精を出していた頃、更女の役員の方からマスクを依頼されていくつか送ったところお礼の手紙をいただきました。自分の作った物が役に立ったと知り、世の中とつながりができた喜びを感じました。

まだまだウイルスの再来の心配が大きく、誰もが先の見えないトンネルの中に取り残された感じがしますが、今まで気づかなかった人とのふれあいの大切さ、ありがたさも感じられるようになりました。

人との距離を保つ新しい様式を受け入れコロナに打ち克つたくましさをも身につけて日々過ごしていこうと心がけています。



大須賀支部 清水 久美子

みなさん、こんにちは。

6月に入り、だんだん日常がもどってきました。お店をやっていますが、お店も少しずつお客様が来てくださるようになりました。

私の大好きなプロ野球も6月19日に開幕します。早くドームに応援に行けたらと思います。

日本は適切な処置のお陰で、外国のようなひどい状態にならず今をむかえました。

これからも、2波や3波がくるといわれています。

日本人の良い生活習慣にマスクの習慣を加えながら、この苦境を乗り切っていきたいと思います。

大須賀支部 伊藤 富子

今年は東京オリンピックなど楽しみにしていたのですが、新型コロナウイルスの出現で思いもよらない状況になりました。

外出は自粛、マスクは必需品、手洗いやアルコール消毒が不可欠と日常生活は様変わりです。私自身も外出を控え、手作りマスクに注力いたしました。家にある材料で作製、一部は少しでもお役に立てればと更生保護女性会にも提供させていただきました。

なにはともあれコロナ騒動、早くおさまって欲しいですね。

大須賀支部 大鐘 きぬ代

外出自粛中なので、畑、庭等の草取りをし、汗を流した分、きれいになりました。孫達4人、小学校が休校の為、三食作るのが大変だったけど、孫達とのふれ合いで楽しさ半分、苦労半分でした。



『新型コロナウイルスに思う』

大須賀支部 峯 美枝子

今年の元旦は快晴。初日の出に家族の健康を願ったのも束の間、中国で新型コロナウイルス発症者が出て邦人を政府チャーター機で帰国させるニュース。テレビでも新型コロナウイルスに関することが多く放映されるようになってきた。

4月には、俳優さんの訃報が報じられた時には、同年代の私どもは緊張と不安が高まりました。

不要不急の外出を控え、丁寧な手洗いやマスク着用、三密を避けるなど自分のできることは努めました。

外出を控えることで日常の生活は、室内での体

操、手芸に読書。新聞は毎日隅々まで読んでいました。

身近に新型コロナウイルスの発症者が出たときには、子供、孫からは細やかな気遣いの電話が多くなり心配をしてくれることを嬉しく思いました。

緊急事態宣言に続いて移動自粛が解除となり日常生活が少しずつ戻ってきましたが、終息には程遠い様に思われて不安も感じます。

新しい生活様式を実践して一刻も早く平穏な社会生活を取り戻したい。皆さんとの出会いで楽しい会話を心待ちにしています。

『グロリオサの絵手紙』 ～さし絵の言葉～

大須賀支部 深谷 由美子

友達にいただいたグロリオサが咲きはじめました。長つゆの中でも、コロナにも、雨にも負けず明るく、力強く咲いているグロリオサに心をなぐさめられ嬉しかったので絵手紙に描き、NHK静岡「ひるしずポスト」に投稿した所放映されました。



大須賀支部 T・N

更女の会員さんから、マスクの作り方の掲載されているパンフレットを頂き、マスクが不足している時期でもあったので、作ってみようと思い、家にあったハンカチで数枚作ってみました。

どの作り方も、それぞれ違いはありましたが、簡単に作る事ができました。

今では、手作りマスクはどこにでも出回っていますが、自作のマスクはまた格別です。

大須賀支部 神谷 郁子

ステイホーム下、運動不足にならないようにと始めたテレビ体操とラジオ体操第Ⅰ、第Ⅱ。草取りや大きな物の片づけ等をすると身体のどこかが痛くなっていましたが、体操を続けたら痛みが出現しなくなりました。それが張り合いで1日2回午前、午後行っています。三日坊主の私、めずらしく続いています。得体の知れない新型コロナウイルス感染症に負けない身体づくりのひとつとして体操を続けようと思うこの頃です。早く終息して楽しい日常が帰ってきてほしいですね。

大須賀支部 R. S

緊急事態宣言が発令、普段通り畑に行き、草取りに専念しました。新型コロナウイルス等、気分的に悪いニュースが飛ぶ中、何年ぶりかでツバメの2番子の子が生まれ、巣を覗いては微笑ましく、思わずにこにこしてしまいました。2番子は大変めずらしい事。ツバメの巣を作る事は良い事だと聞くが日本中、又世界中のコロナウイルスを吹き飛ばす良い事がありますように。

大須賀支部 寺田

コロナ禍で世間が騒ぎ始めた頃から稲作農家にとっては一年で一番忙しい時季。夜、状況をテレビで知る位でした。そう、水面を渡る風に“この風の中にはウイルスいないでしょ”と思わず深呼吸を試みる程。

でも、他県にいる小学4年の孫は、親が帰ってくるまでアパートに鍵をかけ一人で1日すごしていた事を考えると、仕事とはいえ田舎で自由に過ごしている自分が何か申し訳なく思えました。

おおらかな子育てが出来る日々になる事を祈るばかりです。

大須賀支部 神谷 さと子

三密を避ける為、自粛中、この機会を利用し、普段できない家の回り、家の中の片付けをし、大変すっきりしました。早く解除になり、以前のよう外出できる日が来るよう、願うばかりです。



令和2年 更生保護女性会総会

- 編集後記 -

今年、年明け早々からの新型コロナウイルス感染症の拡大から、今までにない生活スタイルとなり、不安と戸惑いの毎日です。

活動を自粛制限される中で、皆さんが自分らしくどのように過ごされている

のかを6～7月に聞かせていただきまとめました。

令和2年7月豪雨災害もあり、多難な年となっています。

まだまだ収束の見えない感染症ですが、1日も早く穏やかな日常が取り戻せることを願っています。

(大須賀支部)